

図書館と子どもたち—学習指導要領の改訂をうけて

1. はじめに／図書館に来る子どもたちが増えたのは、なぜ？

2002年度(平成14年度)からの学校五日制本格実施を前に1999～2001年度が「移行期間」となっています。この期間中に、新しい教育課程に移行するための各学校の体制を整える試行が進められています。その焦点は、新しく始まる「総合的な学習の時間」です。「自ら課題を見つけ、自ら学ぶ」子どもの育成を掲げるこの学習をどう組み立てるのか、現場は大きく揺れ動いています。その活動の一つが「しらべ学習」です。個人またはチームでテーマを立てて、自主的に調べてまとめ、発表するということです。そのために、地域を歩いたり、施設を訪ねたり、図書館に調べにいったりする姿が増えています。

ただ、最近の子どもの生活はスケジュールが組み立てられていて、とても忙しいので、学校にいる時間帯にどれだけゆとりを持たせられるかがキーになっています。

学校図書室の担当者の変化

- a. 読書の推進から
- b. 国語教育から
- + c. 総合的な学習から

2. 「総合的な学習の時間」の創設と「しらべ学習」

新学習指導要領の特徴とその意義

- a. 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。
- b. 自ら学び、自ら考える力を育成すること。
- c. ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教員を充実すること。
- d. 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること。

「総合的な学習の時間」の位置と内容

- a. テーマとして、国際理解、情報、環境、福祉・健康、が例示された。
- b. 活動形態として、自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れることを指摘。
- c. 多様な形態として、地域の人々の協力、地域の教材化や学習環境の積極的な活用を提示。
- d. 「国際理解教育に関する学習の一環としての外国語会話等」とよびかけ。
いろいろな試みと実際の姿

3. 国語科の新しい動向

学校図書館（図書室）の位置

- a. 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。
- (b. 各教科等の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用する学習活動を充実するとともに、視聴覚教材や教育機器などの器材・教具の適切な活用を図ること。)

国語科が「きれいな教科」の第一位！

国語科の新しい試み

「読解」からの解放

4. 子どもの読書とアニメーション

読書と環境……長い不景気のなかでまず教養文化費が削られている。

読書のアニメーション / 友達とともに物語を楽しむ

ファンタジー / 物語を育む

5. おわりに／少年の心の闇と物語る力

子ども（子ども時代）の変化

心の闇と物語

物語る力 / おとなにもとめられるもの